

全国保育実践交流会ニュース

東海地区 2024 年度 2 月発行

この冬は例年になく寒波に見舞われ、各地で大雪となっていますが、皆さんのところはいかがでしょう？東海地区は本当に雪が降らないところで、先日初めてうっすらと白くなりました。年長の子どもたちは、5 園での交流最後のお祝い会を 2 月末に恵の実保育園を会場に行う予定で、お互いに刺激をもらって成長しています。

今回は、秋から冬にかけての各園の様子をお伝えします。

東海地区 5 園の秋・冬のとりくみから

お米作り 蓮華の家共同保育園

蓮華では、13 年前から地域で有機農法でお米作りをしている方（通称アララさん）の協力で、年長になるとその方の田んぼでお米作りから収穫までの体験をさせて頂いています。また一昨年からは蓮華の畑の隣に 7 メートル四方ほどの田んぼを作りもち米作りも行うようになりました。

4 月古い稲株や雑草を取り除いて田植えが出来るようにし、6 月田植え、7 月草取りを何回かし、10 月に稲刈り 2 週間後脱穀をしました。すべて子どもたちが手作業で行っています。脱穀では「オッペルとそう」の紙芝居に出てくるのと同じ昔ながらの足踏み稲こき機で、二人組で一人は足で踏んで機械を回し一人は稲を肩から抱えて穂を機械の回転しているところに当てて米粒を吹き飛ばすというやり方です。要領を得てきたが単純作業に少し疲れてきた頃に、保育者が紙芝居のオッペルの真似をして“働け！もっと働くんた！”とか、白い象のように“ここはいい所だねえ、粃殻がパチパチ当たるねえ”とか言うと、子どもたちは途端に元気が出て



“オッペルになって！”とか“白い象がいい”とか言いながら脱穀を楽しみ出した。“税金が高いんだ！”というセリフも子どもたちから出たりして大人は思わず笑ってしまいました。勢いも付き白いそうのように“働くって気持ちいいねえ”と子どもたち 9 人でたくさんあったうるち米ともち米を全部脱穀しました。その後お釜で炊いた新米を頂き、実りの秋を満喫しました。また、年末の餅つき大会では年長が育てたもち米も石臼で突いて、小さい子たちみんなに振る舞いました。雪合宿の時にもかまくらの中で食べました。



『森は生きている』公演 恵の実保育園

12 月 14 日(土)に恵の実後援会主催で『森は生きている』公演をおこないました。文化庁による「劇場・音楽堂における子供舞台芸術鑑賞体験支援事業」の支援を受け、子ども席が一部無料招待席になるなど、多くの子どもたちに本物の舞台芸術にふれてもらう機会となりました。東海地区の交流園をはじめとし、関西地区の姉妹園からも沢山の参加協力をいただきまして、総参加者数 1,253 人と、大盛況のうちに終わることができました。来場された方々にマツユキ草の球根を、劇団仲間の方々にも豊川名物稲荷寿司と汁粉サンドをお土産に渡し、喜んでいただきました。

アンケートの結果も「昔、一度観た舞台を是非また観てみたいと思って来たが、大変感動した」「またこういう催しをまたやってほしい」というような感想が多く『森は生きている』の底力を感じました。皆さん、ありがとうございました。



節分 つばさ・つばさこ保育園

今年は2/2が節分の日でしたが2/3の月曜日に行事をおこないました。毎年「鬼」を怖がり泣けてしまう子がいるので保育士は悩みますが、紙芝居を事前に読んだり、鬼退治の紙つぶてを一緒につくったりして節分を待つ気持ちを作ってきました。でもやっぱり着物姿に赤鬼の面の迫力ある「鬼」を見るなり「きゃー怖い」「こっちにこないでー」と逃げ回り、中には部屋から園庭に飛び出していった子もいました。昨年鬼が怖くて節分に参加できなかった4歳男児も今年は怖くても向っていくと決め見事「鬼は外、福は内」と言いながら紙つぶてを投げていました。そしておやつ 시간には、給食さんにきてもらい、恵方巻のやり方を教えてもらいました。作り方が分ると「やってみたい」「自分のを作りたい」となり、自分で作って食べました。



クリスマス会 たけのこ保育園



12/21にクリスマス会を行いました。子どもたちがそれぞれ作ったクリスマス飾りを披露した後、年長保護者による「カエルの豆太」の劇。お父さん、お母さんの思いのこもった豆太の劇に子どもたちは食い入るように見入っていました。劇を通して年長のお父さん、お母さんの結束もさらに高まりました。劇の後にサンタさんから自分たちで作ったブーツに入ったプレゼントを貰い大喜びでした。



大高緑地5園交流合宿 おひさま保育園

11月上旬に、名古屋市緑区にある大高緑地を拠点にした1泊2日の年長合宿を行いました。天気に恵まれ気持ちの良い草斜面でのリズム。斜めの場所でのリズムは体幹がしっかり育ってこそ楽しめ、床では味わえないバランス感覚やスピード感を仲間とともに味わえました!特に一気に斜面を下っていくハイハイや斜めでのツバメの宙返り、プルカで跳躍、縄跳び等子どもも大人も楽しく意欲が増しました。

自然からの贈り物はシャシャンボの木の实やスタジイ。みんなパクパク食べましたよ。おひさま保育園の年長さんからはここで採れたマテバシイのペンダントを皆さんにプレゼントする事ができました。

交流二日目のお弁当では、今年も秋を満載に詰め込もう!と給食さんは色々な献立の案を出し、十品のおかずとおむすびを詰め込みました。メインに秋鮭の味噌焼き。季節の柿やインゲン、里芋、銀杏などを使いました。また保育園周辺で採れるクズの花の甘酢漬けや、露草の花びらをすり混ぜた露草塩、紫蘇の実の佃煮、稲穂の素揚げなどをアクセントに使いました。また毬栗に見立てて、マッシュしたさつま芋で栗を包み、素麺をまぶして揚げた「毬栗素麺」はとても好評でした。お弁当を開いた時、食べる時のワクワクと喜びを想像しながら、親さんと共に楽しく作る事ができました。また、おやつはテーマである「錦の中の仙女」にちなんだ月餅を作りました。錦色に染めた紙袋に入れ、子ども達一人一人に渡しました。秋晴れの中、笑顔溢れる交流となりました。

